

平成 26 年度

宮 田 村 教 育 委 員 会 7 月 定 例 会 々 議 録

1 開催日時：平成 26 年 7 月 23 日(水) 13：30～15:30

2 開催場所：宮田村民会館 第 1 研修室

3 出席委員

- (1) 篠田 秀児 委員長（以下「委員長」と表記。）
- (2) 村田 壽雄 委員長職務代理者（以下「職務代理」と表記。）
- (3) 加藤 アヤ 委員（以下「加藤委員」と表記。）
- (4) 池上 由美子 委員（以下「池上委員」と表記。）
- (5) 平澤 武司 教育長（以下「教育長」と表記。）

4 欠席委員：なし

5 その他、会議に出席した者の氏名

- (1) 小林 敏雄 教育次長（以下「次長」と表記。）
- (2) 北原 敦 学校教育係長（以下「学校係長」と表記。）
- (3) 原 寿 子育支援係長（以下「子育係長」と表記。）
- (4) 酒井 秀貴 生涯学習係長（以下「生涯係長」と表記。）
- (5) 笹谷 志げ子 子育て支援センター施設長（以下「笹谷施設長」と表記。）

6 教育委員長あいさつ

委員長：先日行われた上伊那地区教育委員会研修会と総会については成功したという声が高かった。事務局の皆さんの努力に感謝申し上げたい。また、南部地区の教育委員会ほか色々な研修もご苦労様でした。本日もよろしくお願ひしたい。

7 会々議録の承認

- (1) 6 月定例会（事前配布）

次 長：6 月定例会々議録の承認をいただきたい。

- (2) 7 月臨時定例会（別紙）

次 長：7 月の臨時定例会の会議録については追記の必要がある。7 月 25 日の臨時議会全員協議会で報告し、9 月の定例会の委員会の中で提案するのでご承知おき願ひたい。会議録の調整員を会議に出た職員の中から教育長に指名していただく。

委員長：会議録の調整員を、平岩学校教育係にしたい。

委員：全員承認。

8 議 題

議 事

議1号 人事案件について (別紙)

※協議内容には個人情報が含まれるため、資料、議事録の公開はしません。

議2号 準要保護児童、生徒の認定について (別紙)

※協議内容には個人情報が含まれるため、資料、議事録の公開はしません。

(3)報 告

報告1号 教育委員会活動報告(教育長報告) (資料1、5ページ)

次 長：資料により説明

委 員 長：承認でよいか。

委 員：全員承認。

報告2号 「うめっこらんど」の状況について (資料1、6ページ)

笹谷施設長：資料により説明

・このような機会をいただきありがとうございます。うめっこらんどが開設され3ヶ月目に入ったが、気づいたことを報告する。

・5/7に受入れが始まった。時間の経過と共に丁寧な対応が必要な児童が増えてきた。

・1日平均40名前後の利用者があるが、個別対応、配慮が必要な児童が10~15名いる。10数年前の文科省の調査ではこのような児童は6~7%だった。現在は10~16%位といわれている。宮田も同様に推移している。

・発達障害は、社会力・対人関係、言葉によるコミュニケーションが苦手、こだわり、感覚過敏の4つがあり、これらを持つ児童が多い。原因は分からないがこのままでは二次的障害が予想されることから、職員で一人一人を観察し手立て、対応策を考えた。うまくいかない児童については保護者と相談し対応している。

・「だめ」という言葉は使わず、うまくできたらほめるようにしている。発達障害の児童は、否定されたり挑発されたりすると「止めて」と言えず相手に飛びかかる。取っ組み合いのけんかになることがあり、職員の負担になっている。

・トラブルを起こしやすい子は、人との距離の取り方の手立てを考えていく。挑発的な言動の児童についての対応は教育委員会こども室にお願いしてある。

・職員の資質を上げるため、月1回内部研修を行っている。学童の運営に向け地域、保護者、利用児童の協力を得る必要があり、今週末にも保護者会を開く。

・職員の児童に対する対応が閉鎖的になってはいけないので、誰が見てもおかしくない対応が出来るよう、ボランティア始め多くの人に入ってもらいたい。

・関係機関との連携と情報共有の一環として、7/18に小学校教諭と情報交換会を行った。1年生については全担任が出席され、学校もこちらと同じ個別対応であることが確認できた。今後は連携を密にしていこうという言葉をいただき有難かった。

・医療機関から、特性のある学童の保護者にうめっくらんどに来てもらい、自分の子どもの状態を見て、話を聞いてもらうようアドバイスいただいた。

・つくし園にも助言をいただき周知していく。

・上伊那全域が学童で大変苦勞している。「きらりあ」にも協力いただき足並みをそろえて対応していく。

・子どもたちにとって、一番いい対応ができるように努力していきたい。時間はかかるかもしれないが長い目で見てほしい。今後二次障害を防ぐためにも今の時期にきちんとやっていくことが大事。

・発見して医療関係につないで終わりではなく、そこから私たちのフォローが始まる。発達障害者支援法・学校教育法・障害者自律支援法に基づき対応していく。

・障がいをもった人たちが地域で暮らすのが困難になる。そのため障がいを理解するため、住民への啓発活動が大事。方法はいくつもあるので村としてどの方法にするか話し合っしてほしい。

子育係長：児童館利用状況については日による変動が大きい。遊ゆう広場は利用者が増えている。

学童保育は4月から少しずつ減っている。

次 長：学童保育は小学校とは違い、異年齢の児童が集まるので、いろいろトラブルも出てくる。

対応するには人員の確保が必要で、現在募集し採用している。

学校係長：夏休みの学童保育が28日からスタートしたが、夏休み中の登録者は80名。

・職員の体制は、8時から13時、13時から18時、9時から16時まで3つのシフトで、常時4名と必ず男性が1名いるようにしている。

・男性は、小学校で不登校対応の伊藤先生や事務局で対応している。事故がなく夏休みが終わればと思う。

次 長：抑止効果ではないが、男性がいると指示が通りやすい。男性がいるだけで子供の状況が変わる。年下の子にちょっかいを出してトラブルになっているので、家庭のお父さん、おじいちゃん目で守れたらいいと思う。

加藤委員：学童の利用が減っているのはなぜか。土曜の利用人数が多いが、トラブルはないのか。

笹谷施設長：利用は少し減っているが、登録者数は増えている。

・土曜は、多くても部屋が別なのでトラブルはない。

・児童館の子供たちは、約束を守ることができる。人に手を出すことはなく、自分たちでルールを決めて遊んでいるので対応しやすい。

次 長：支援の必要なお子さんたちについては、保育園でも小学校でも加配をつけて対応してきた。学童はその点、準備不足だったことを反省している。受け入れる以上はそれなりの体制を整え支援していかなければいけない。

・村長にも必要な支援について承認をもらっているので、体制を整えていく。

・職員の質については、笹谷さんにレベルアップしてもらおう。小学校では問題が起きていないのであれば小学校と学童の担当者の話し合いが有効だと思う。

笹谷施設長：個別の会議はなく、現在は大雑把な情報交換のみ。本来なら個別のケース会議が必要

と思うが、宮田ではまだ行われていないので、これから検討が必要か。

次 長：学童自体がそういう目的でなかったもので、後手になってしまった。

笹谷施設長：上伊那では、どこも対応に苦慮しているのが現実。

- ・伊那市では自己負担がなく児童デイで受け入れる社会福祉法人がある。
- ・駒ヶ根だけは加配対応をしている。
- ・今後どんな形で学童をやっていくかということ、上伊那圏域障がい者総合支援センター「きりりあ」が中心になりながら考えてくれ、指導してくれる。
- ・スーパーバイザー的な人が揃っているの、知恵は出してください。新規のところ子どもを受け入れてくれるといいが。

次 長：宮田村社会福祉協議会では、高齢者のデイサービスの内容を検討しているらしい。そこで障がいを持つ子供を受け入れてくれればいいが、これまで障がい者を対象にしていなかったので大変と思う。

- ・社協が、障がいを持つ子どもの支援の需要があると判断すれば、事業に取り入れていくこともあり得る。
- ・笹谷施設長：伊那市、駒ヶ根市の社協では障がい者を受け入れ運営している。社協が受け入れてくださればその中で教育的配慮をして毎日 SST（社会生活技能訓練）ができるようになる。

委員 長：教育委員会だけで無理なら方向性として考える必要がある。社協とは任意の団体か？

次 長：次回整理して報告する。

- ・宮田村では、体制の整備が十分にできていない。
- ・こども室はあるが、駒ヶ根市のように福祉事務所と連携が取れていない状況で、児童福祉のくくりで、DV や虐待、生活困窮の事例まで受けている。

委員 長：どさくさまぎれに引き受けた図式ではよくない。このままでは臨時職員も集まりにくいようだが、長期的には障がいの重い子については、社協の協力も得られればいい。

- ・子育て日本一を目指すのだから、村全体で取り組み方向性を出していかなければならない。
- ・夏休みを無事過ごせるように願う。

池上委員：そのような状況で、うめっこうらんどに行きたくないという子は出ていないか。

笹谷施設長：トラブルの直後に、当事者ではない子がショックで1週間休みたいということがあったが、次の日、学校でみんなで振り返り気持ちが吹っ切れたと出てきてくれた。大きなトラブルが原因でやめるといったことはない。

委員 長：ではこの議題は閉じる。

委 員：全員承認。

報告3号 「信州 体験の風をおこそう」運動について (資料1、16 ページ)

次 長：資料により説明

- ・「体験の風を起こそう」は、少年自然の家を中心に、全国レベルで行っている。

・長野県では、宮田村、伊那市、岡谷市の3自治体が実行委員会に入っており、今後は広がっていくと考える。

・高遠少年自然の家は、宮田村が土曜学習を始めるということで、実行委員会に加え、国の審査が通りやすくなるように考慮した。

・子どもの体験が少ないというデータから、国が動き出したようだ。

・10月に統一イベントを行うが、今回は高遠スポーツ公園の開催なので、地域が限定される。来年以降は広げていくようだ。日程は決定後報告したい。

・のぼり旗や、松本零士氏のデザインによるメダルを作成する。

・土曜学習の後半には、高遠青少年自然の家の職員が来て、無料で授業をやっていただける約束になっている。

・冬には、高遠青少年自然の家のバスを使い、高遠で体験を行う案もある。

・ガチャピンムックの写真をカラーでなら使っているとされている。

学校係長：上伊那全体で行う10月のイベントとは別に、村の子どもまつりの時「体験の風をおこそう」のブースを作る。その際申請すればメダルがもらえるが、育成会では松本零士氏を知らない子供が多いことから使用は検討中。

委員：全員承認。

報告4号 土曜学習にかかわって

学校係長：土曜授業について、中学校は補習的な授業を開始した。小学校は夏休み明けに募集開始をすることから明日土曜学習「宮田うめっこ塾」のチラシを配り周知していく。これまで子ども安全会議、PTA参観日等でチラシを配り周知してきた。

教育長：募集の書類を、保護者に配布前に委員に配るように。

委員：全員承認。

報告5号 駒ヶ根高原フィールドミュージアム親子体験イベント及び教職員向け研修会について (資料1、20ページ)

次長：資料により説明

・フィールドミュージアムの教職員向け研修が有ることについて承知していただきたい。

委員：全員承認。

報告6号 本陣おいで塾について (資料1、24ページ)

生涯係長：資料により説明

・申込み者数は男子17名、女子3名で計20名。教育委員と社会教育委員に負担をかけず見守っていただき、公民館長中心に主事と教育経験者等で対応する。

教育長：天候によらず宮田高原を必ず利用できるよう、1日目に設定するなど日程を考えて欲しかった。

生涯係長：日程は親子説明会で伝えてあり、高原の予約もしてある。

加藤委員：この時期、高原は一般利用客もあるので、日程をスライドするのは難しいのではないかな。

委員長：試行でここまでこぎ着けた。成功を祈るということでいいかな。

委員：全員承認。

報告7号 成人式について (資料1、28ページ)

生涯係長：資料により説明

- ・アトラクションについては実施するか否かから検討したが、今回は当時の梅樹祭のDVDを上映し校歌を皆で歌うことを予定している。

- ・実行委員会は、4月から3回打合せをした。もう一度最終打合せをし、実行委員会ですることの詳細を詰める。

- ・昼食会は実行委員会の進行で行い、式前日の準備についても仕事が休みということで手伝ってくれる。

教育長：アトラクションは吹奏楽部の卒業生に頼むという話があったが、DVDと校歌という話になったのはなぜか。

生涯係長：5月に中学生の吹奏楽をやめるという話が決まり、その後滝澤先生等に吹奏楽OBで演奏してもらえないかと相談したところ、時間がなさ過ぎて無理だというお話だったので、実現できず今回の内容となった。来年に向けて検討したい。

- ・式典前に流すDVDは、大人も楽しめる内容で、CATVで放映された物。昼食時のDVDは当方手作りの物。

教育長：事前に次長に相談があったのか。

次長：今聞いた。

池上委員：実行委員の意向によるものか。あくまでも新成人を祝う会なので実行委員から出てきた希望に沿ったものであればいいのではないかな。

教育長：時間がないので、アナウンサーの演出でうまくやるしかない。私はOBの方の演奏があるかと楽しみにしていた。

池上委員：吹奏楽は全員での練習時間が必要で簡単ではなく、滝澤先生がおっしゃる通り無理だと思う。

生涯係長：式典の司会進行については、実行委員でできないか相談している。

池上委員：成人式に関しては去年からいろいろ経緯があるので、去年までとは違ったものであっていいと思う。

- ・中学の吹奏楽は、苦情があり中止したことから考えると順当。新成人が主体性を持った形となるのが理思想的だと思う。実行委員会を早めに立ち上げ計画してきた経緯は、希望が持てるものと考えます。

加藤委員：新成人たちにとっては、今回のような昔の映像の方が思い出に浸れ、面白いのではないかな。知らないOBの演奏を聴くより新成人の気持ちになればこちらの方がいい。笑いが起こって盛り上がり、話のタネにもなる。梅樹祭だけでなく他にもいろいろあるといい。

池上委員：来賓のための成人式はナンセンスな気がする。

教育長：ランチルームで上映するDVDは村の職員が何時間も残業して作ることはやめ、なるべく時間をかけずにやってもらいたい。勤務時間内でできる努力をしてもらいたい。

委員長：去年からのいきさつでごたごたしたが、基本は忙しすぎる中学教員の軽減を考えた。日常的な教員の過重労働を軽減し、生徒指導に力を注げるようにするのが大事かと考える。先生が本気でやれば学校は良くなるし、そうでないと荒れてくる。

加藤委員：教員が多忙なのと、成人式は関係ないのではないか。教員の多忙の原因は不登校の子供の対応や保護者の対応に時間を割くことが一番の原因だといっているの、それと成人式を絡めて何かをなくすのはどうか。最初の話も誤解だったので教員の多忙と成人式をつなげないでいただきたい。

委員長：教育長からの大事な提案だったので、私も同意した。

教育長：成人が主人公で行うもので、そのためにはそれなりのステージを我々が用意する。村が主催で学校にはあまり負担を掛けないということによいと思う。

委員長：よろしくお願ひしたい。

委員：全員承認。

9 その他

(1) 当面の日程について (33 ページ)

次長：資料により説明

生涯係長：少林寺拳法でインターハイに2人、全国中学校体育大会に1人、フェンシングでインターハイに2人出場する。5人の激励会を7月31日に行う。

学校係長：水泳で全中の北信越大会に7名出場するので、本日激励会を行う。小学校ではリレーで県4位に入ったので8月24日には東海大会に出場するので夏休み明けには激励会を行う。

教育長：今年はよく頑張っている。

委員：全員承認。

(2) 県教育委員会の情報 (1、34 ページ)

次長：資料により説明

学校係長：7/9の大雨で小学校は6時限目をカットし3時に下校した。中学校は部活を切り上げた。

委員：全員承認。

(3) うめっこ塾運営委員会について

次長：9月の定例会の委員会の中で提案したいので確認をお願いしたいが、意見がいろいろあるので精査したい。国の指針では委員会は実施するのではなく事業に対して意見をもらうことになっている。委員の要項がなく、まだ話を詰めていない。

委員長：審議諮問機関としてということか。

委員：全員承認。

委員長：本日はご苦労様でした。

- ・次回定例会：8月25日(月) 13時30分から 第1研修室
⇒後日8月28日(木)に変更